

## 結成！地域防犯ボランティア

子どもを取り巻く凶悪な犯罪が多発していた頃、警察署の呼びかけで、地域の子どもたちを地域で守ろうと、地区の役員、防犯連絡員、老人会員などが協力して子どもを守る自警団を結成し活動を始めました。

当初は、週1日（火）を「立哨の日」と定め、当番で区内3か所を下校時刻に立哨指導に当たりました。時間が経つにしたがって区内に立哨の輪が広がり、昨年度から全戸（280戸）当番を決めて巡回や立哨に当たるようになりました。子どもたちとのコミュニケーションや地域の人たちの交流も深まり、また地域全体で子どもたちを守ろうとする意識も高まりました。



鍋屋地区子どもを守る自警団  
桜井 信文さん

近年、罪のない子どもや女性・老人の方が犯罪の犠牲になるケースが増加しています。この現実を少しでも減らそうと、昨年、会を立ち上げました。

私たち34人の会員は、各地区での徒歩や車両による夜間パトロール、犯罪防止のための広報および警戒活動、学校や地域住民の皆さんからの各種連絡や相談など、警察署との密接な連携を図り効果的な犯罪防止活動を行っています。これにより、地域の皆さんの防犯意識が高まれば、地域から1件でも犯罪を減らすことができるのではないのでしょうか。これからは、地域の皆さんが安心して暮らせる街づくりを目指して活動していきたいと思っております。



大和地区防犯ボランティアの会  
小川 寛さん

本地区にスクールガードリーダーの方がおり、1人で岩瀬地区で9校を担当しているとのことで、少しでも手伝いが出ればと思い、区役員で相談したのが隊設立のきっかけです。隊は区役員15人で構成されており、防犯パトロール用ベスト・帽子を着用して、児童・生徒の登下校の安全を見守ることを主眼とし、併せて地域の安全を守り、安全安心な街づくりの活動を目的としています。

交差点に立っているだけで、車の運転者は信号機を注意し運転するように見受けられます。

我々のこのような活動が事故などの防止につながればと思います。



桜川市岩瀬地区防犯パトロール隊  
渡邊 忠さん

テレビ・新聞などで子どもに対しての犯罪が頻繁に報じられ、これらの犯罪防止に貢献できないかと、同級生を中心に、また各地区の皆さんにご協力をお願いし、26人の方にご賛同いただき、平成18年10月に会を発足しました。

主な活動は、真壁地区の小学校の児童通学路の登下校のパトロールおよび交差点の立哨活動、また地区内の防犯に対する目配りなどを毎日行っています。パトロールで、通学路に危険な箇所などがあった時は、警察署の方に連絡しております。子どもたちも笑顔で手を振ってくれ、会員の皆さんも活動の励みになっているようです。



児童を守る会  
高橋 一雄さん

上小幡「子供を守る自警団」は、児童の安全で安心な通学、犯罪・事故などの未然防止、防犯意識の高揚を図るため平成16年に発足。地区役員・防犯連絡員・交通安全役員・青少年育成推進員・子供会などの70人で組織されています。

活動は、週1～2日間、児童の下校時に2人1組で地区内を立哨活動およびパトロールをしています。また、通学路の安全点検を実施し、関係機関へ通報ならびに情報の提供を行っています。なお、未組織地区には自主防犯活動を積極的に呼びかけ、地域全体が「犯罪・事故のない安全・安心の地域づくり」に参加していただけるようお願いをしています。



上小幡「子供を守る自警団」  
古橋 要夫さん

平成16年2月（如月）、女性の目線で子どもたちを守り、安全で安心な街づくりをしようと有志が集まり「防犯、あいさつ・声かけ」を目的に、会の活動が始まりました。設立当時は10人でしたが現在は15人で活動しています。

月1回以上の岩瀬地区の小学校を順次パトロールし下校時に児童と一緒に歩いたり、通学路の不適切箇所などを市役所へ報告するなどの活動の他、手作りの防犯パンフレットの配付なども行っています。

「あいさつ・声かけ」は、どこでも出来ることなので私たち大人も声を出すことを心掛けたいものです。



自警団 きさらぎの会  
下条 美代子さん

桜川市では、さまざまなたちがそれぞれの地域・立場から街や子どもたちを守っています。



揃いの防犯パトロール用ベスト・帽子で下校時の児童（岩瀬小学校）と一緒に歩く、自警団「きさらぎの会」の皆さん

# 結成！ 地域防犯ボランティア

地域防犯ボランティア活動の紹介

### 全国的に 自主防犯意識の高まり

安全で安心なまちづくりを実現するためには、犯罪者に犯行の隙を与えない地域の防犯活動や防犯意識の高まりが大切です。

実際に多くの地域で、住民の皆様の自主的な防犯活動の輪が広がっています。国内には、35,000を超える防犯ボランティア団体（平成19年6月末）があり、県内でも地域住民の皆様により、自主的に防犯ボランティア活動を行う団体が数多く結成され、平成14年に24団体310人だったものが、なんと5年後の平成19年には849団体の60,400人までに増加しています。この防犯ボランティア団体の増加は、平成10年に犯罪発生件数が67,672件と最多を記録したものが年々減少傾向にあるなど、地域での犯罪防止に大きく貢献していると思われれます。

### 地域の連携で 犯罪発生を抑止

防犯ボランティア団体の活動の多くは、地域住民の皆様による立哨活動やパトロールです。「自らの街の安全は自

ら守る」という、自主防犯意識があれば誰でも参加できる活動です。パトロール中などに人に会ったら誰にでもあいさつをし、街や人の様子を注意深く見て歩くことにより、防犯に役立つ事柄が見えてきて、改善を要する箇所の発見や不審者・犯罪を企てている者を地域から追い出すこともできます。

泥棒が犯行前の下見などをしているときに、地域の方に「こんにちは。」などと声をかけられると、犯行を諦めやすくなります。こうした活動を通じて地域の連携が進めば、地域から犯罪を減らすことができるはずですよ。

防犯ボランティア団体などの活動により、犯罪防止に効果のある地域コミュニティが再生され始めています。犯罪の発生を抑止するには、地域住民の皆様が何よりも必要です。

桜川市においても、現在6団体約400人の方がそれぞれの地域・立場から街や子どもたちを守っています。今月号では、その地域防犯ボランティア団体の皆様のご活動をご紹介します。